

「まちづくり住まいづくりの60年」有識者座談会&U30 若手職員対談を開催

3月14日(月)、建築家・遠藤剛生氏、京都女子大准教授・井上えり子氏、(株)MUJI HOUSE・松本雄作氏、OURS編集部・竹内厚氏、UR都市機構西日本支社・中田副社長の5名による有識者及びU30若手職員の座談会を開催しました。これは、(一社)日本建築協会発行の雑誌『建築と社会』UR特集号出版企画の一環として開催したものです。

URは1955年の日本住宅公団発足から昨年で60年をいう区切りをむかえており、今回の座談会では、これまでの取組みや最近のURの取組み事例を取り上げながら、“リノベーション”、“コミュニティデザイン”、“外部への発信”の3つを主なテーマとして、有識者4名と中田副社長のそれぞれの立場・視点から今後の展開等について意見が出されるなど活発な議論が繰り広げられました。また当日は、「UR若手が語るPJ(U30『ワカモノに届け』)」と題して、西日本支社のU30若手職員7名による対談も開催されており、若者ならではの視点から今後のURの進む方向性等について意見交換を行いました。なお、この有識者座談会及び若手対談の詳細は、雑誌『建築と社会』8月号(UR特集号)に掲載予定です。



有識者座談会の様子



有識者座談会メンバー

(左から松本氏、井上氏、遠藤氏、竹内氏、中田副社長)



U30 対談メンバー



U30 対談の様子